

vol. 283

Summer 2026

お茶の水女子大学の今を伝える広報誌

Ochadai
お茶大ガゼット

GAZETTE

Contents

02 分野を越えて、未来を拓く。 お茶大の学び

特集1 教養教育: 21世紀型文理融合リベラルアーツ
特集2 専門教育: 複数プログラム選択履修制度

06 学生のアクティビティ

国際教育センター
留学生日本語学習支援・交流室チューター

08 教員紹介

藤山 真美子
文理融合AI・データサイエンスセンター 准教授

09 卒業生紹介

岡田 麻希 さん
理学部生物学科 卒業

10 附属学校園からのお知らせ

文京区立お茶の水女子大学こども園

分野を越えて、未来を拓く。 お茶大の学び

これからの時代に求められるのは、分野の枠にとらわれない柔軟な思考力と課題解決力です。

お茶の水女子大学では、文理を横断し多様な学びを組み合わせることができる「21世紀型文理融合リベラルアーツ」と「複数プログラム選択履修制度」を全国でも先駆的に導入してきました。このような教育プログラムは、1つのキャンパスに文系・理系全ての学部が集うお茶の水女子大学だからこそ実現できるものです。

本特集では、自分らしい学びを主体的にデザインできる本学の教育の魅力と、その可能性を紐解きます。

特集1 教養教育

21世紀型文理融合リベラルアーツ

国内でも先駆的な分野横断型の教養教育

私たちの身の回りの世界は、自然や科学技術、社会の仕組みなど、さまざまな要素が複雑に結びついて成り立っています。たとえば環境問題1つとっても、気候のしくみ(理系)だけでなく、人々の暮らしや政策(文系)も深く関わっています。また、現代では専門的な知識を身につけるだけでなく、それを異なる背景をもつ人にもわかりやすく伝え、社会の中で役立てていく力が求められています。

「21世紀型文理融合リベラルアーツ」は、そのための力の基盤となる知識と学び方を身につけ、生涯にわたって学び続ける力を養うことを目的とした教育プログラムです。カリキュラムは身近な現象から社会的課題まで、5つのテーマで構成されており、自然科学・人文科学・社会科学の3つの視点から学びます。異なる分野の授業を組み合わせ

学ぶことで、1つのテーマをさまざまな角度から理解できるのが特徴です。

ここで身につけた視野や思考力は、その後の専門教育へとつながり、学びをより主体的

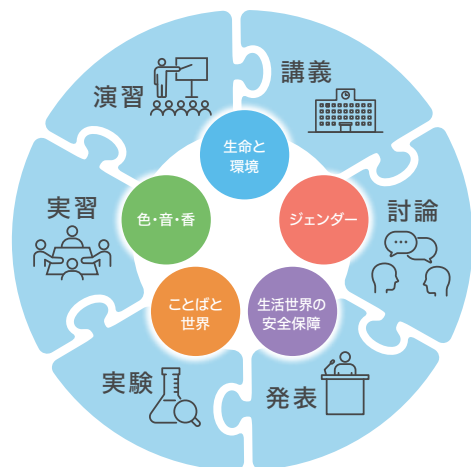
で深いものにします。それは、変化の大きい社会の中で、自ら問いを立て、考え続けるための確かな基盤となります。

理系 文系 文理融合

テーマ	授業の例
生命と環境	生命の科学 生命や環境に関する話題をオムニバス形式で紹介します。
	生命倫理と法 生命倫理と法がどう関係し、法はどのように対処すべきか考察します。
	海洋環境学ダイビング(実習) 次頁をご覧ください。
色・音・香	分子から見た色と香り 色とにおいの知覚と分子構造の関係を学びます。
	色・音・香と生活文化 色彩が持つ社会的・文化的意味を学びます。
	おいしさと色・音・香 “おいしさ”を食品化学と歴史から総合的に考えます。
安全世界の保障	水の安全保障 水資源の適切な利用や、気候変動と水環境との関係などについて学びます。
	トランス・サイエンス論入門(演習) 環境や医療・技術倫理など科学だけでは解決できない課題について考察します。
	ゲノム時代の健康管理 現代医療に不可欠なゲノム情報の利活用と課題について考察します。
ことばと世界	コミュニケーションと心理学 意思疎通を図る際の周囲の認識や相互の影響等について心理学の知見に基づき学びます。
	手話学入門 言語としての日本手話の特性を理解し、基本的なコミュニケーション能力の習得を目指します。
	数理のことば 数学的な問題を題材に、論理的な思考方法と表現方法について学びます。
ジェンダー	宗教文化とジェンダー 特にイスラームに焦点をあて、ジェンダー関連の論点を講じていきます。
	政治・政策とジェンダー 政治制度、選挙などについてジェンダー視点から学習します。
	アートとジェンダー 次頁をご覧ください。

■ 文理融合リベラルアーツの5つのテーマと授業形式

■ 授業の例 テーマごとに、分野の枠を超えた多様な授業が展開されています。



開講科目をご紹介します！

21世紀型文理融合リベラルアーツでは、4つの学部の教員が、それぞれのテーマに沿った授業を開講しています。

ここでは、特色ある2つの授業と、受講した学生の声をご紹介します。

授業① テーマ：生命と環境

海洋環境学ダイビング(実習)



湾岸生物教育研究所では全学対象のリベラルアーツ科目として2つの臨海実習を開講しています。その1つ、海洋環境学ダイビング(実習)を紹介します。四方を海に囲まれた日本ですが、現代の生活では海を体験する機会はあまりないと思います。そこで、海で潜水を直接体験する実習を2004年に始めました。受講生は大学のプールで事前講習を受けたあと、夏休みに千葉県館山の施設に宿泊して実習に臨みます。ダイビングの講習を浅瀬から始め、2日間で水深10mを超えるところまで慣れていきます。最後に、水中カメラを片手に、砂地と岩場で見られる生き物の違いや最近増えてきた造礁サンゴなど、海底の様子を観察します。最初は緊張しますが、最後には“魚”の世界に入り込んで、楽しみながら海の環境への関心を深めています。

基幹研究院 自然科学系 教授
清本 正人



学生の声

タンクやベストなどの重い機材を背負って海まで歩いたり、ライセンス取得のための勉強をしたりと大変でしたが、実際に館山の海に潜って魚の群れやサンゴが見えた時にはとても感動しました。自分で潜ってカメラで撮った生き物の名前や種類を図鑑で見つけた時、とても嬉しかったです。

理学部 生物学科 3年 金子 千珠子

授業② テーマ：ジェンダー

アートとジェンダー



「アートとジェンダー」は、21世紀型文理融合リベラルアーツのうち、ジェンダー系列科目の1つです。この科目では、主に西洋近現代社会における視覚イメージのあり方を、フェミニズムの議論を踏まえた美術史の視点で紐解きます。講義では、女性表象の系譜、「美術」を支える制度における女性の位置付け、表現の主体としての女性芸術家とその複数性、ステレオタイプな女性イメージを書き換えるさまざまな模索などを学び、加えて、美術館における展示や作品を自ら分析することも試みています。日常のなかで目にする様々なイメージをジェンダーの視点で自ら批判的に検討する力を養い、社会に溢れる「女性のイメージ」に対峙した際、飲み込まれずそれを相対化し、自身を自由に表現して豊かに生きてゆくための方法を、共に考えたいと思います。

基幹研究院 人文科学系 講師
内山 尚子



学生の声

専門知識がなくても、楽しく学べる講義でした。作品の構図や人々の意識がいかにジェンダー観と関わりがあったかに驚き、芸術を支え続けてきた制度を問い直すことが自分自身の価値観について改めて問い直すきっかけになりました。

文教育学部 芸術・表現行動学科 音楽表現コース
2年 青木 わかな

特集2
専門教育

複数プログラム選択履修制度

専門+αを自由に組み合わせる制度

「1つの分野を深く学ぶこと」は大学教育の基盤であり、専門性を築くうえで欠かせません。一方で、現代社会では、複数の分野の知識や視点を組み合わせて考える力の重要性も高まっています。

お茶の水女子大学の「複数プログラム選択履修制度」はこうした時代に対応した柔軟な学びを実現する仕組みです。

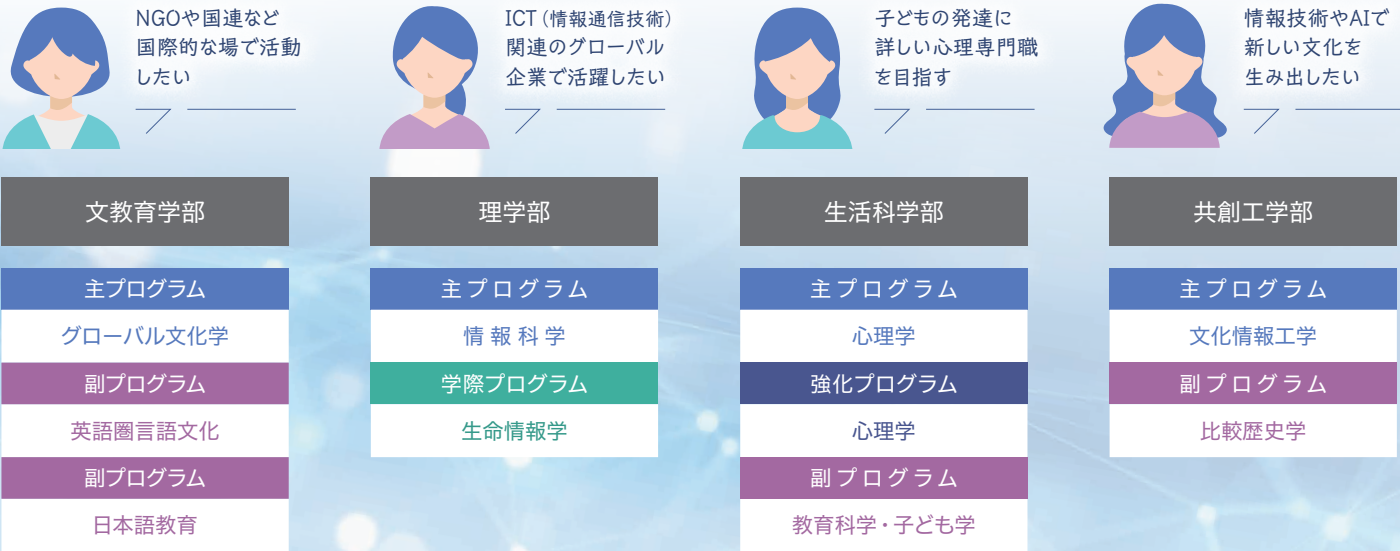
学生はまず、自分の専門分野となる「主プログラム」を選び、基礎から応用まで体系的に学びます。そのうえで、同じ分野をさらに深める「強化プログラム」や、異なる分野に広げる「副プログラム」「学際プログラム」を組み合わせることで履修していきます。たとえば、

人間環境工学主プログラムを選択した学生が、消費者学学際プログラムを第2のプログラムとして選択することで、消費者視点から、技術等が実社会でどのように受け入れられ、機能するのかまでを視野に入れた学びが可能です。また、生活文化を学ぶ学生が語学系の副プログラムを選択し、海外の文化や文献に直接触れることで、専門への理解をより豊かにすることもできます。

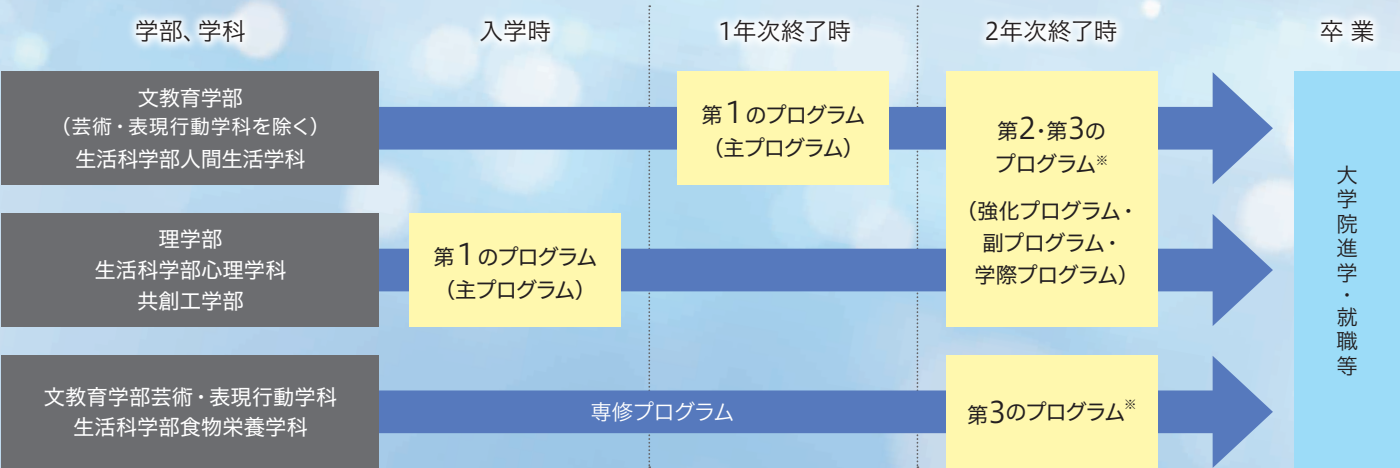
この制度の大きな特徴は、「深める」ことも「広げる」ことも、どちらも自分で選べる点にあります。最初から進む方向を決める必要はなく、学びながら興味や関心に応じて、組合せを考えていくことができます。

こうした経験を通して得られるのは、知識の広がりだけではなく、異なる分野を行き来しながら考える中で、自分の関心を深く見つめ直し、進む方向を主体的に選び取る力が養われていきます。「何を学ぶか」に加えて「どのように学ぶか」も自ら設計できるこの制度は、変化の激しい社会の中で、自分らしい道を切り拓くための確かな基盤となります。

※一部の学科（文教育学部芸術・表現行動学科、生活科学部食物栄養学科）では、4年間一貫した専修プログラムで専門を学びます。その場合、第2のプログラムは履修しませんが、第3のプログラムとして副プログラムまたは学際プログラムを選択することができます。



■ プログラム履修例



■ 学部、学科ごとのプログラム選択・申請時期 ※第3のプログラムは、2年次終了以降（3年次以降も含め）申請可能です。

学生のご紹介します！

実際に複数プログラム選択履修制度のもとで学び、現在はお茶の水女子大学大学院で学修をさらに深化させている学生に、本制度について聞きました。



人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻
生活文化学コース 博士前期課程2年

宮本 万帆里

第1・第2に生活文化学の主・強化プログラムを選択し、西洋服飾史を中心に学ぶとともに、第3に仏語圏言語文化副プログラムを選択しました。仏文コースは他学部には属しますが、関心に近い授業が多く開講されていたため、フランス語やフランス文学を中心に、時間割の許す限り積極的に履修しました。その成果として、学部3年次にはフランス語学力資格試験（DELF）B2を取得し、フランス語スピーチコンテストにも出場しました。こうした分野横断的な学修を基盤として、現在は17世紀末フランス文学に描かれた色彩や服飾を研究しており、各分野での学会発表にも積極的に取り組んでいます。また、外国語教育センターのフランス語担当ティーチング・アシスタントとして、留学生と日本人学生の交流を支えています。今後はフランス現地での資料調査にも挑戦し、さらに学びを深めていきたいです。



人間文化創成科学研究科 ライフサイエンス専攻
生命科学領域 博士後期課程2年

東出 さら

私は学部生の時、生物学主プログラムと強化プログラムを履修しましたが、選択する際は悩んだ記憶があります。最終的には専門分野を集中的に学ぶことができる強化プログラムを選択しましたが、学際的な選択肢もあったことで、一度立ち止まり、自分の学びたいことや将来やりたいことまで深く考える良い機会になりました。その上で専門分野を深める道を選択し、強化プログラムの授業で学んだ内容は非常に刺激的で、その経験が、現在、博士後期課程で専門分野をさらに深める研究へと繋がっていると思います。専門分野を深める場合も、学際的な幅広い学びに挑戦する場合も、いずれの道も選択できる環境があることで、学生が自らの意思に基づいて主体的に学びを選び取ることができる点に、複数プログラム選択履修制度の大きな意義があると感じます。

担当理事・副学長からのメッセージ



複数プログラム選択履修制度は、21世紀型文理融合リベラルアーツと並び、お茶大の学士課程教育の魅力を象徴するプログラムです。専門を深く究めたい、あるいは分野を越えて学びを広げたい——そうした多様な志向に応え、学び方そのものを主体的に設計できる点に大きな特長があります。専門分野に軸足を置きつつ、異なる学問領域へと関心を広げながら、専門性と学際性の双方を磨き、自らの関心や将来像に応じて学びを自在に組み立てることができます。さらに、第3のプログラムまで含めることで、所属する学部を超えた学びの機会が広がります。4種のプログラムを組み合わせることで、知的好奇心の赴くままに学びを縦横無尽に広げていける点が、この制度の大きな魅力です。

理事・副学長(教育改革・入試改革担当) 曹 基哲



国際教育センター

留学生日本語学習支援・交流室チューター

お茶の水女子大学には、世界各地から多くの留学生が集っています。異なる文化や言語背景をもつ学生たちが学び合う環境を支えているのが、「留学生日本語学習支援・交流室」です。ここでは、大学院生がチューターとして、留学生の日本語学習や学生生活等を支援しています。今回は、交流室の活動に焦点を当て、その取組と想い、また利用者である留学生の声をご紹介します。

チューター制度の概要

「留学生日本語学習支援・交流室」は、留学生の学生生活のサポートおよび学生同士の交流の場を提供する組織です。お茶大の大学生と大学院生によって運営されています。

学生生活のサポートでは、レポートや論文といった日本語文章の添削や、日本語の会話練習、生活面の相談などの支援を提供しています。その他にも、PC・プリンターの利用や進路・就職に関する相談、休憩や食事等自由に使えるラウンジの運営など、留学生の学生生活のサポートを幅広く担っています。

また、留学生と日本人学生に向けた交流の場を設けるため、季節ごとにイベントを主催しています。過去には、7月のかき氷大会、10月のハロウィン仮装・クイズ大会、1月の羽子板大会などを開催してきました。このようなイベント行事は、留学生としての同じ悩みを持つ仲間を見つけられた、日本人学生と仲良くなるきっかけになったなど、留学生生活をより豊かにする機会を提供するものとして好評です。

「留学」とは、母国を出て慣れない場所で自分の学びを続けるだけでなく、さまざまな新しいことに挑戦したり、異なる価値観を持つ人々と出会ったりすることによって自己成長を実現していく過程です。留学生活には楽しいことがある一方で、時には苦しいことに直面することもあると思います。そんなときこそ、学生の皆さんが一人で抱え込むことなく、悩みに寄り添いながら、一緒に解決策を見出していけるよう、サポートしています。

近年、社会において国際的な友好交流の機会がますます重要になっています。交流室というこの小さな共同体が、誰かの国境を超える交流活動の第一歩として役立つことを願い、日々活動しています。

ハロウィンパーティー

10月の交流会では、ハロウィンパーティーをしました。各々が好きな仮装をして来て、とっても華やかでした。お菓子を食べたりおしゃべりをしたり、クイズ大会をしたりしました。



オリジナル羽子板作り

1月の交流会では、好きな絵柄を描いて、自分だけのオリジナル羽子板を作りました。



チューター＆利用者の声

チューターとして留学生を支援した大学院生と「留学生日本語学習支援・交流室」を利用した留学生の声をお届けします。



チューター 小川 志音 さん

人間文化創成科学研究科
比較社会文化学専攻
日本語日本文学コース
博士前期課程2年



日本語学を専攻しているため、助詞や補助動詞のはたらき・ニュアンスの差異などをお話するときにその知識を活かしています。利用者の方がしっくりくる表現と一緒に見つけれられたときに、大きなやりがいを感じます。日本語と中国語の特徴の違いなど、話す中で様々な発見があり、私自身が学ぶことも多いです。

チューター 川等 美咲 さん

人間文化創成科学研究科
比較社会文化学専攻
日本語教育コース
博士前期課程2年



私は日本語教育分野の研究をしていますが、利用者の方とのお話を通して、日本語非母語話者が感じる日本語の難しさについて知ることができ、自分の研究にもつながる新たな気づきを得ています。毎回とても勉強になり、貴重な時間になっています。交流会では、普段なかなか出会う機会のない方々とお話できるのがとても楽しいです。また、参加者の方から「またやってほしい!」という声をいただいたときは、とても嬉しく、やりがいを感じました。

チューター 大室 恵美 さん

人間文化創成科学研究科
ジェンダー学際研究専攻
博士後期課程4年



いろいろな研究をしている方の文章を読み、お話ができます。普段は違う研究分野の方となかなか出会えませんが、さまざまな領域の方の研究を知ること、自分も勉強になります。

利用者 管 晶 さん

人間文化創成科学研究科
比較社会文化学専攻
国際日本学領域
博士後期課程3年



私は研究で日本語文法を扱っているため、日本語のさまざまな表現の細かなニュアンスについて、交流室のチューターの方々に質問することが多いです。ニュアンスの違いは言葉だけで説明するのが難しいですが、その際、チューターの方々が図を描いたり辞書を引いたりしながら、丁寧に分かりやすく説明してくださったおかげで、自分の研究や日本語能力そのものの向上にも大いに役立ちました。交流室の皆様にも心より感謝しております。

利用者 鄭 瑞雪 さん

人間文化創成科学研究科
比較社会文化学専攻
言語文化論領域
博士後期課程2年



入学以来、交流室を継続的に利用しています。最大の魅力は、多様な背景を持つチューターの方々と直接対話できる点です。最近はAI添削も便利ですが、ここでは一文一文を丁寧に確認していただきながら、読み手にどう伝わるかという反応を即座に確認できます。客観的な視点を得ることで、自分の研究内容や表現をより深く見つめ直せる、私にとって非常に貴重な場所です。

教員紹介

Interview

藤山 真美子 先生

文理融合 AI・データサイエンスセンター
准教授

Profile

九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻修了後、建築設計事務所勤務。東北大学工学研究科都市・建築学専攻助教などを経て、2021年にお茶の水女子大学に着任。2022年より、お茶の水女子大学ジェンダー・イノベーション研究所兼任。

Q1 着任されるまでの経歴についてお聞かせください。

私が都市や建築のデザインに関心を持った背景には、歴史や文化、テクノロジー、理論といった多様な分野への興味があります。建築は専門性が求められる一方で、分析(考えること)と設計(つくること)を往還しながら、異なる知識を統合していく分野である点に魅力を感じ、この分野を志しました。私は空間を単なる形態としてではなく、気候や環境、文化、社会、技術、人の認知などが重なり合う複合的な存在として捉えています。大学院ではオランダの都市・建築デザインを対象に研究を行い、治水の歴史によって形成された人工的な大地の上に都市が成立している事例を通して、環境や文化が空間構成や人の知覚に与える影響について学びました。修士課程修了後は設計事務所に勤務し、住宅や集会所の設計に携わりながら、基本設計から施工監理まで一貫して経験し、実務を通じて、多様な制約条件のもとでデザインを実現するプロセスを学びました。大学に戻ってからは、こうした実務経験を基盤に、研究と設計実践を往還するプロジェクト型の活動を重視し、都市・建築空間が創出する新たな価値の探求に取り組んでいます。

Q2 ご専門の研究についてお聞かせください。

現代社会では、技術や人工物の発展によって生活環境の効率化・高度化が進む一方で、事象の細分化・単純化が進み、本来相互に関係していた人・環境・技術・文化といった要素が分断されつつあります。そのため、個別要素としてではなく、それらの関係性の中から総合的な価値を見出す視点が重要になっています。私の研究では、「空間」を媒介として、複数の要素が重なり合う「ひとまとまりの場」の可能性を再評価することを主題としています。多様性や個性が前提となる現代においては、分野横断的な要素の関係性を読み解き、それらを全体として再構成する「総合の論理」を扱う視点が不可欠だと思います。現在はこのような視点から、海外都市を対象とした都市農業や都市緑化に関する国際共同研究、企業や行政と連携したストリートデザインを起点とする社会実験を通したまちづくり、さらに空飛ぶクルマやVRなどの先端技術を活用した空間分析・設計手法の研究に取り組んでいます。これらを通して、現実空間とデジタル空間、自然と人工、公共と私的領域など、一見すると矛盾や対立しているものが融合する複雑な空間を、

どのように設計し、評価していくのかを探究しています。

Q3 お茶大生へのメッセージをお願いします。

現代の工学や都市・建築の分野は、1つの専門だけで完結するものではありません。自然科学や技術に加え、人の行動や心理、歴史や文化といった多様な要素が相互に関係しながら成立しています。これからの社会において求められるのは、個別の知識を深めるだけでなく、それらを結びつけて新たな価値を生み出す力だと思います。異なる分野の視点が交差することで、これまでにない発想や新しい領域が生まれます。都市や建築の分野には、まだ明確な正解があるわけではなく、まさにこれから形づくられていく領域でもあります。だからこそ、教員と学生という立場を超えて、若い皆さんとともに試行錯誤を重ねながら、新たな分野や価値を共に切り拓いていきたいと考えています。

担当：埋忠 美沙
コンピテンシー育成開発研究所 准教授

Mamiko Fujiyama

Q1 現在のお仕事について教えてください。

JAXAの有人宇宙技術部門宇宙環境利用推進センターで働いています。有人の「人」は宇宙飛行士のことです。宇宙飛行士たちは宇宙で楽しそうにしているイメージがあるかもしれませんが、実は地球上での生活に還元できるような、宇宙でしかできない実験を行うために国際宇宙ステーション(ISS)に滞在しています。その宇宙飛行士たちが実施する宇宙実験の準備を行うのが私の部署の主な仕事です。実験やミッションの種類ごとにグループが分かれています。タンパク質結晶生成のミッションや静電浮遊炉のミッション、小型衛星の放出ミッションなどのさまざまなミッションがある中、私は運よく専攻していた生物学に近いライフサイエンス系のミッションを担当するグループに配属されました。インターネットで「きぼう利用」(ISSの中で日本の実験棟をきぼうと呼びます)と調べていただくと、いろいろな宇宙ミッションを覗いてみるできるので、興味のある方はぜひ調べてみてください。

Q2 JAXAの業務の中で一般のイメージとは異なると思う点を教えてください。

部署などによりますが、研究開発員という肩書でも、私のように実験の準備作業などの調整業務が主な業務になることもあるため、特に修士卒や博士卒などの自分で積極的に研究を進めたい人は入職後にギャップを感じている気がします。私は学部卒だったため、専門的な知識を過度に要求されず逆に少し安心しました。私の行なっている調整業務は一般的な事務作業と同じような作業かもしれませんが、宇宙に打ち上げる道具や宇宙飛行士へ指示を出すための手順書の調整など、これまでの生活からは想像もしたことがないようなものもあり、楽しく働いています。

Q3 今思う学生時代の後悔を教えてください。

もっと勉強しておけばよかったと思います。私の場合は特に英語や生物学についてです。臨海実習や動物園での飼育実習、科学館での学芸員実習など、実習への参加は楽しく積極的に行っていたのですが、私は机に向かうのが苦手で、座学は本当にひどかったです。学科の先生方のご指導のおかげでなんとか卒業できたという状況でした。そのため、働き始めは、代表研究者(宇宙飛行士が行う実験の提案者)との調整の際には、話についていくのがやっとという状況でした。

担当：宮崎 充彦
基幹研究院 自然科学系 教授

卒業生紹介

Interview

岡田 麻希 さん

国立研究開発法人
宇宙航空研究開発機構(JAXA)

Profile

2018年3月理学部生物学科卒業。同年4月より国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)に入職。現在は、研究開発員として筑波宇宙センターに勤務。



宇宙実験を楽しく
お手伝いさせてもらっています

Maki Okada

附属学校園からの お知らせ

様々な感性が育つ～自然との出会い～

文京区立
お茶の水
女子大学
こども園便り
from Center for Early Childhood Education and Care

こども園の0歳児から5歳児までの子どもたちは、天気の良い日には水筒をリュックに入れ、毎日お茶大キャンパス内の散歩を楽しみ、春夏秋冬の移ろいを身体いっぱいに吸い込んでいます。
「自然との出会い」に着目し、こども園の取り組みをお伝えいたします。

2025年12月3日、大学150周年のお祝いとお茶大こども園開園10年目のお祝いを重ねて大学中庭にザクロの木2本、キンカンの木1本を植樹しました。この植樹は、『ポケット・ガーデン創生プロジェクト』（代表：刑部育子園長）に位置づいています。また、大学のSDGs推進研究所が応援してくださっています。

大学の授業（環境デザイン論 仙田孝先生）の取り組みとして展開された『ポケット・ガーデン創生プロジェクト』では、大学内の8箇所（A～K）に学生の手によって創意工夫したガーデンが誕生しました。こども園の子どもたちは、散歩の途中で花などを見て「咲いてきたね。」と話したり水をあげたりしています。花や木を愛で、散歩の楽しさが広がっています。



ザクロの花が咲きました！
花芽から実になるまで変化していく
様子が楽しみです！



和紙の原料「ヒメコウゾ（姫楮）」の果実
が！球形になり熟しています。どんな味
がするのでしょうか？



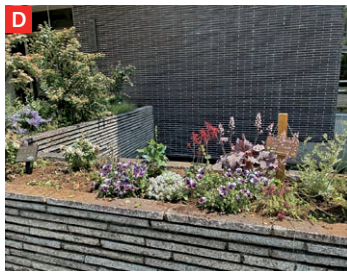
ここにも、和紙の原料「ミツマタ（三桧）」の葉が出る
前に、枝の先端に花が！

★こども園が植えた樹木 3箇所（A～C）

- ・ザクロ ・キンカン ・コウゾ ・ミツマタ
- ・ミモザ ・ジュンベリー

★大学生が作ったガーデン 8箇所（D～K）

- ・花苗選びから自分たちで行う。
- ・「テーマ」のあるガーデン ・ネーミングも素敵



お茶大キャンパスの新名所！8つのガーデンを見つけれられますか？子どもたちが知っていますよ。素敵な時を！



子どもたちの
心の中に、
確かに何かが
育ちあっている！

A くいしんぼうの庭

子どもたちが遊ぶ中庭にザクロ・キンカンを植樹しました。多くの子どもたちが実りを味わえるようにと願って。

B ワクワクの木

和紙の原料であるコウゾを植樹しました。木で紙ができるって？夢がひろがります。

C うれしい庭

ミモザ・ミツマタ・ジュンベリーを植樹しました。坂道を降りて進む散歩の楽しさが増えました。

D Trois Couleurs

（トロワ・クルール）季節の移ろい、上品さ、落ち着きのある三色ガーデン

E X'mas garden

（クリスマスガーデン）クリスマスを感じられて、飾り付けや色づく葉が楽しめるガーデン

F 坂で彩る四季の庭

坂の上りと下りで四季を表し、端まで彩りが添えられたガーデン

G 香りの庭

キャンパスの記憶をつくり出す、香りのガーデン

H 五感を育むガーデン

花の色・香り、風で揺れる音、葉の触感、果実の味など五感を育むガーデン

I 物語の庭

絵本、童話、古典などの世界を感じられる、図書館前の物語のガーデン

J 子どもも猫も楽しめるガーデン

子どもが植物を身近に感じられ、お茶猫も安心して来られるガーデン

K 小さな冒険家たちの秘密基地

子どもたちが隠れてくぐれる、遊び要素あふれる秘密基地のガーデン

（ガーデンマップ パンフレットより）

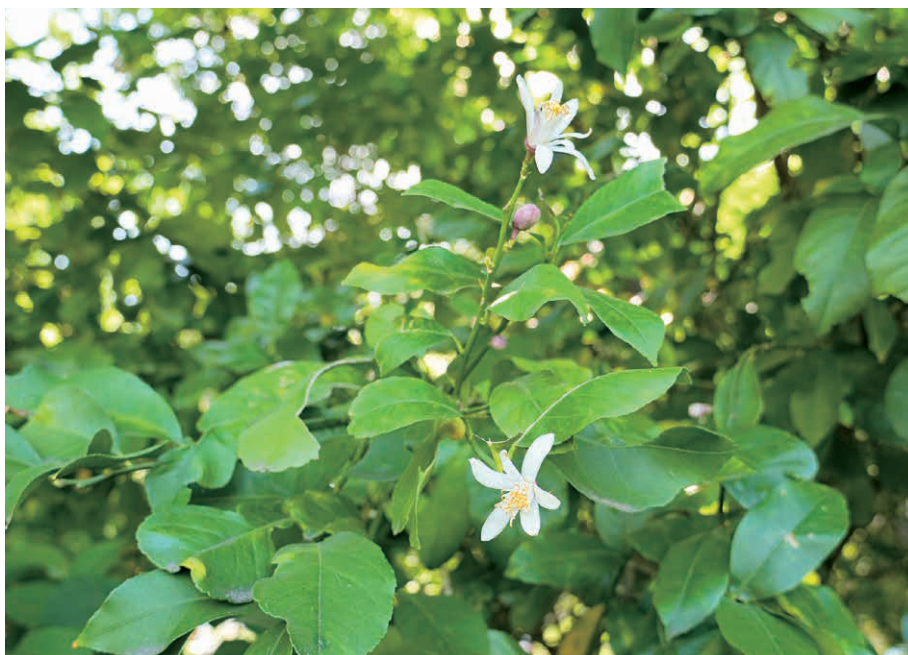
附属学校園での出来事 2026年 4月～6月

Jun. 6

May 5

Apr. 4

- 個人面談
- 避難訓練・安全指導
- 乳児健康診断
- 入学式・始業式・着任式・対面式
- 新入生オリエンテーション
- 3年修学旅行（沖縄方面）
- 春季健康診断
- 春季健康診断
- 避難訓練（地震）
- 自治会選挙・歓迎会
- PTA総会・教育後援会総会
- 保護者会（全学年）
- 入学式・始業式・新任教員・新入生オリエンテーション
- 情報モラル講習会・歓迎会
- 全国学力・学習状況調査
- 避難訓練（地震・避難経路）
- 保護者対象情報モラル講習会・学年別保護者会
- PTA総会・教育後援会総会・全体保護者会
- 離着任式・始業式・入学式
- 給食開始
- 保護者会（各学年）
- 全国学力・学習状況調査（6年）
- 避難訓練
- 新入生を迎える会
- 健康診断
- 校外学習（1年）
- 授業参観
- 郊外園サツマイモ植え（3年）
- 保護者総会・かがみ会総会・教育後援会総会
- ようこそようちえん
- 進級式・入園式
- 保護者会・親子で遊ぶ日（4歳児）
- 避難訓練
- 誕生会（4月生まれ）
- PTA総会
- いずみナースリー
- 避難訓練（図上訓練・地震）
- 野菜苗植え
- うれしいはじまりの日
- 始業式
- みんなのはじまりの日（入園式）
- 乳児健康診断
- 遠足（5歳児）
- 避難訓練
- 安全指導
- 誕生会・こどもの日
- 全国児保護者会
- 附属高等学校
- 1年諏訪合宿
- 3年学力テスト
- 体育祭
- 附属中学校
- 健康診断
- 生徒総会
- 三味線ワークショップ
- 教育実習1期（6月8日）
- 体育大会
- 附属小学校
- 交通安全教室（1年）
- 避難訓練
- 引き取り訓練
- 教育実習（6月）
- 校外学習（1・2・3年）
- 運動会
- 附属幼稚園
- こどもの日の集い
- 全学年引き取り避難訓練
- 親子遠足（新宿御苑）
- 誕生会（5月生まれ）
- 親子で遊ぶ日（3歳児）
- 教育実習開始（前期2週間）
- いずみナースリー
- 避難訓練（地震）
- 在園児定期健康診断
- 保護者会
- 災害用伝言ダイヤル試行
- こども園
- 個人面談
- 全国児健康診断
- バス遠足（4・5歳児）
- 給食試食会
- 誕生会
- 避難訓練
- 安全指導
- 親子遠足（3・4・5歳児）
- 附属高等学校
- 面談週間
- 台北一女来校
- 学校説明会
- 自治会総会
- 3年ケンブリッジ英検
- 期末考査
- 教育実習
- 3年学力テスト
- 期末テスト
- 避難訓練
- 附属中学校
- 体育大会
- グローバルキャンプ（1年）
- 林間学校（2年）
- 修学旅行（3年）
- 期末テスト
- 避難訓練
- 附属小学校
- 校外学習（4年）
- 郊外園ジャガイモ掘り（1・6年）
- 水泳学習（9月）
- 保護者会（6年）
- 土曜参観
- 附属幼稚園
- 避難訓練
- 誕生会（6月生まれ）
- ジャガイモ掘り（5歳児親子）
- 健康診断
- 親子で遊ぶ日（5歳児）
- いずみナースリー
- 避難訓練（火災・救急要請）
- 個人面談
- 教育後援会総会
- 親子でどうこう会
- こども園
- 個人面談
- 水遊びはじめ
- 誕生会
- 避難訓練
- 安全指導
- 乳児健康診断



Ochadai GAZETTE

vol.283
Summer
2026

発行日 / 2026年7月6日

発行 / 国立大学法人お茶の水女子大学

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

ご意見・ご感想はこちらまで

広報・ダイバーシティ推進課

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp

URL: <https://www.ocha.ac.jp/>



本誌、およびバックナンバーは、
本学ホームページに掲載されています。
どうぞご覧ください。



お茶の水女子大学
Ochanomizu University